



ふたば

平成30年9月21日
甲府市立千塚小学校
No. 12 文責:校長 中國

学校教育目標
心豊かで
たくましい子ども

全国学力・学習状況調査結果報告

本調査は、平成30年4月17日（火）に実施され、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく「①教科に関する問題(国語・算数・理科)」と、「②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」に分かれ、国語・算数とも[A：主として「知識」に関する問題]と、[B：主として「活用」に関する問題]の2つに分かれています。理科は、AとBを一体的に出題しています。

また、子どもの生活の様子や意識に関する調査を、質問紙で行っています。

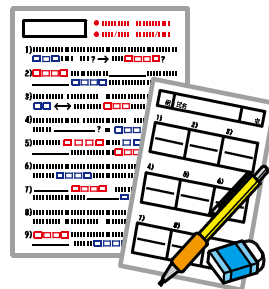
8月に文部科学省から本校の結果が送付され、本校でも運動会等学校行事への取り組みと並行して、結果の分析を行ってまいりました。このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を皆様にお知らせするとともに、本校ホームページにも掲載していきます。

なお、調査に参加しました6年生には、個別懇談等を通して具体的な課題等について説明していく予定です。

1 全国平均との比較

どの教科も全国平均を上回りました。

- ① 国語A 全国平均をやや上回ります。
- ② 算数A 全国平均をやや上回ります。
- ③ 国語B 全国平均を上回ります。
- ④ 算数B 全国平均を上回ります。
- ⑤ 理科 全国平均を上回ります。



⑥ 質問紙調査

学習への関心は高いですが、学習習慣については、自分は身につけていないと感じている児童が多いです。生活習慣はよいと感じていますが、規範意識は低いと感じている児童の割合が多いです。

2 昨年度の千塚小結果との比較

国語と算数については、昨年度と同様に良好な状況にあります。理科は前回の平成26年度調査と比較して、改善しております。

3 成果と指導の改善

① 国語A

話す・聞く、書く、読む、関心ともに望ましい状況にあります。特に話すこと聞くことについては、高い正答率でした。「聞く」こと「話す」ことは基礎基本であり、活用につながるものなので、学校生活の様々な場面でこれからも育てていく必要性を感じています。

② 算数A

図形分野が、やや低い正答率でしたが、4つの領域すべて良好な状況にあります。基本となる学習を大切に、粘り強く習得できるように指導していきます。

③ 国語B・算数B

どの領域も、全国平均を上回り、良好な状況にあります。しかし、国語への関心・意欲態度は、全国平均値と比べると数字的にはあまりよくありませんでした。読書活動も含め、日常から国語への関心を高めるよう働きかけていきます。

④ 理科

問題を、枠組み（知識活用）区分、（物質、エネルギー、生命、地球）、評価の観点（関心意欲、思考表現、観察実験の技能、知識理解）、問題形式（選択式、短答式、記述式）とどの観点でみてもほとんどが全国平均を上回り、望ましい状況にあります。特に知識理解は、全国平均と比較すると非常に高かったです。さらに関心を高め、知識をもとに思考を深める理科学習を進めていきます。

4 日常生活について

質問紙調査で本校児童は学習習慣や規範意識などについて、自分たちがあまり高いとは思っていないなど、全体として自己意識があまり高くないという傾向がありました。そのためか、日常の授業や生活において主体的に判断し、行動することに自信をもってできない面が見受けられます。

また、進んであいさつができない子も目立ちます。自分たちの有能性を意識し、主体的に学んだり、行動したりできる児童をさらに育てていきたいと思えます。

5 家庭学習について

家庭学習に対する資料を今年度も継続配布し、家庭との共通理解のもと推進しています。このこともよい結果につながったと思われます。家庭との情報交換をすすめ、児童が意欲をもって取り組める効果的な家庭学習の課題などを工夫していきたいと思えます。

6 千塚小学校では

①指導と評価の一体化

授業の中では発言やノートを評価し理解の進み方をチェックし、授業後もノートや学習教材で個別に評価を行っています。一人一人の児童の学習の進み方について担任は常に評価を行い、その評価に基づいた授業づくりを行っています。指導と評価の一体となった授業が、日々行われています。

②授業規律の徹底と基礎・基本の定着

学習の効果を高めるためには、学校生活にふさわしい態度が必要です。背筋をのばした姿勢、学習内容に合った文具で丁寧に文字を書くこと、学び合いに適した声や話し方など、学習規律を身につけることを指導しています。

③学び合う授業に基づく考え、活用する資質、能力の育成

日常の授業では、安心して意見が言え、誰の考えも尊重する温かい人間関係、行事などで協力して目標を達成する学級集団など、学級担任を中心に「学び合う学級」を形成しています。5月にはQU検査（よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート）を実施し、学級づくりに活用しています。望ましい学級の人間関係の中で、互いの考えを伝え、話し合う活動が個々の児童に内面化したものが「思考」であると考えています。「思考力」は、授業の中での学び合いによって育てています。

④学び合う教師集団「校内研修と教材研究」

本校では、教師が学び合い互いに力量を高め合う校内研修を行っています。研究主題を定め、理論研究や授業研究を行っています。授業を見合うこと、意見を交換することなど、授業と同様に学び合う校内研修となっています。全体で行う授業研究だけでなく、全員が一人一実践の研究授業を年一回は行っています。

⑤教育課程とカリキュラムマネジメント

授業の効果を高めるために、児童の実態や学習の習得状況の評価し、指導計画を常に見直すカリキュラムマネジメントを行っています。

新学習指導要領の移行期でもあり、日課表や週時程などの見直しも行っています。

